

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26285088

研究課題名(和文)医療・福祉組織の知識創造経営と組織倫理に関する国際共同研究

研究課題名(英文)International joint study on the knowledge-based management and organizational ethics of health/social care organizations

研究代表者

川村 尚也 (Kawamura, Takaya)

大阪市立大学・大学院経営学研究科・准教授

研究者番号：80268515

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：わが国の医療・福祉組織に即した知識創造経営モデルの開発に向け、国内外の知識創造経営、クリティカルマネジメント研究、(応用)倫理等の研究者・実務家の国際共同研究組織を構成し、特に「組織倫理」(善い組織的实践を示唆する明示・暗黙的規範)に着目して、関連研究の収集・分析と医療・福祉施設の事例調査等を行った。わが国の医療・福祉組織の組織倫理の実態と課題、患者・利用者価値を向上させる実践の創造を導く組織倫理とそれを発展させる「フロンティック・リーダーシップ」を理論的・実証的に明らかにし、そうしたリーダーシップを発揮できる実務家を育成する、ワークショップ技法を用いた組織倫理教育プログラムを試行した。

研究成果の概要(英文)：As a preliminary study to develop a model of knowledge-based management for health/social care organizations in Japan, this project conducted literature reviews and case studies of health/social care organizations in Japan focusing on the functions of "organizational ethics", which are organizational norms that suggest good organizational practices, by an inter-disciplinary research team of international academics and practitioners of knowledge-based management, critical management studies, (applied) ethics and so on. It investigated the realities and limitations of organizational ethics of Japanese health/social care organizations and the criteria of organizational ethics that create organizational practices with more value to patients and users, as well as the "phronetic leadership" that develops such creative organizational ethics. It also developed prototypes of educational workshops for health/social care practitioners to cultivate the phronetic leadership among them.

研究分野：経営学(経営組織論、知識創造経営、イノベーション経営)

キーワード：医療・福祉組織 知識創造経営 組織倫理 クリティカルマネジメント研究 リーダーシップ 組織倫理教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 欧米先進国では、医療・福祉組織の経営について経営学の専門研究者による研究が蓄積されている。わが国では保健医療・社会福祉分野の実務家・研究者が、欧米の先行研究を参照して独自に研究を進めてきており、経営学の専門研究者による本格的な研究は始まったばかりである。本研究開始時点で、知識(創造)経営(Nonaka, Toyama & Hirata, 2008)の視点からの医療・福祉組織経営の研究は、近畿クリニカルパス研究会(2003)、大串(2007)等の概説的研究にとどまっており、特に Nonaka らの「知識ベース経営」モデルが、知識創造経営を牽引するリーダーシップとして重視する「フロネティック・リーダーシップ phronetic leadership」に関する研究は皆無であった。

(2) フロネティック・リーダーシップは、「最善の目標を選択し、的確にそれを達成するための手段を開発する能力」であり、善悪の判断基準をもつ能力、他者と文脈を共有して場を醸成する能力、個別の状況/物の本質を洞察する能力、言語/コンセプト/ナラティブを用いて、特殊と普遍を相互変換する能力、共通善に向って概念を実現する政治的パワー、他者のうちにフロネシスを育成し、レジリエントな組織を構築する能力等を含むとされる。

(3) 消費者が自由に選択できる財・サービスを市場競争の中で提供する営利企業と異なり、患者・利用者の生命と基本的人権、厚生に直結する必要不可欠なサービスをほぼ独占的に提供する医療・福祉組織では、フロネティック・リーダーシップの最重要機能は、患者・利用者にとっての新たな価値を生む組織的実践(知識)の創造を導く、組織固有の「組織倫理」を構築し発展させていくことにあると考えられる。

< 参考文献 >

Nonaka, I., R. Toyama, and T. Hirata (2008). *Managing Flow - A Process Theory of the Knowledge-Based Firm*, Palgrave Macmillan

近畿クリニカルパス研究会(2003)『医療・福祉のナレッジ・マネジメント』日総研出版
大串正樹(2007)『ナレッジマネジメント 創造的な看護管理のための12章』医学書院

2. 研究の目的

本研究は、わが国の医療・福祉組織の実態に即した知識創造経営モデルの開発に向けて、特にそこにおける「組織倫理」(明示・暗黙的な倫理指針・綱領・行動規範)の機能に着目して、わが国の医療・福祉組織における「組織倫理」の実態と課題、知識創造(患者・利用者)に新たな価値を生む組織的実践の創造を導く「組織倫理」と、それを構築・発展させる

フロネティック・リーダーシップのあり方を理論的・実証的に明らかにすると共に、そうしたリーダーシップを発揮する医療・福祉実務家を育成する、ワークショップ手法を用いた組織倫理教育プログラムを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究代表・分担者・国内外研究協力者として、知識創造経営、クリティカルマネジメント研究、医療・福祉経営、(応用)倫理、医療・看護・社会福祉の研究者・実務家による学際的な国際共同研究組織を構成し、構成員が参加する共同事例調査・研究会を定期的実施した。主に大阪地区の医療機関・社会福祉施設による知識創造経営への取り組みと倫理的課題への対応についてヒアリング調査を行い、その結果を研究会で検討した。

(2) 国内外の経営学、倫理学、保健医療・介護・社会福祉研究等の分野における医療・福祉組織の経営とその倫理的課題に関する研究文献・資料を収集・分析した。

(3) 海外で開催される経営学系国際学会で報告を行い、海外研究者からのアドバイスと研究文献・実践事例情報を収集した。学会渡航時には、併せて海外研究協力者を含む海外の専門研究機関・研究者へのヒアリング調査と資料収集を行った。また、国内経営系学会と国内の保健医療・倫理系学会で研究報告を行い、国内研究者からのアドバイスと研究文献・実践事例情報を収集した。

(4) 日本の医療・福祉組織においてフロネティック・リーダーシップを発揮できる医療・福祉実務家を育成するための、ワークショップ手法を活用した組織倫理教育プログラムのプロトタイプを開発し、それを大阪市立大学社会人プロジェクト研究「医療・福祉イノベーション経営」を受講・卒業した大阪地区の医療・福祉専門・管理職の協力を得て試行して、その結果を分析・評価した。

4. 研究成果

(1) 共同事例調査・研究会

中核的研究活動として、国内外研究協力者を招聘して次の通り実施した。

平成 26 年 7 月 18-19 日に、海外研究協力者マクシミリアン・ヴィルケスマン氏及びユーイ・ヴィルケスマン氏(ともにドイツ・ドルトムント工科大教授)を招聘して、大阪市内の大学病院の施設調査と研究会を開催し、医療安全に関する病院職員の報告と招聘研究者の研究報告を踏まえて討議を行った。

平成 27 年 2 月 17 日に、海外研究協力者スーザン・モファット氏(英国ニュービックスアター)及びマーガレット・ライリー氏(英国キンドルパートナーシップ)を招聘して、尼崎市内の病院施設調査と研究会を開催し、招

聘研究者の医療・福祉実践開発の事例報告を踏まえて討議を行った。平成27年2月21-22日には、モファット氏とライリー氏の指導のもとに、大阪市立大学と大阪市内のコミュニティカフェで、地域住民と医療・福祉専門職・管理職によるアートワークショップを実施し、その参与観察を踏まえて討議を行った。

平成27年10月31日-11月1日に海外研究協力者ヒューゴ・レティエシュ氏(オランダ・ユトレヒト人文科学大学名誉教授)を招聘して、大阪市内の社会福祉施設調査と研究会を開催し、招聘研究者の研究報告を踏まえて討議を行った。

平成27年11月12日に、海外研究協力者マッツ・アルヴェッソン氏(スウェーデン・ルンド大学教授)を招聘して、大阪市内の病院施設調査と研究会を行い、招聘研究者の研究報告を踏まえて討議を行った。11月14-15日にも、アルヴェッソン氏及び他の海外研究者の参加を得て国際研究集会を行った。

平成27年7月19日に大阪市立大学で、服部俊子(研究分担者)が代表を務める科研費研究課題「現場に根ざした医療組織倫理の構築に向けた基礎的研究」研究組織メンバーを招聘して第1回合同研究会を開催し、本研究メンバーによる研究報告と討議を行った。

平成28年5月1日に大阪市立大学で、「現場に根ざした医療組織倫理の構築に向けた基礎的研究」研究組織と2回目の合同研究会を行い、両研究組織が合同主催する日本医療・病院管理学会学術総会シンポジウムの内容を討議した。

平成28年9月3日に、海外研究協力者ポール・アドラー氏(南カリフォルニア大学教授)を招聘して、山中湖村で研究集会を開催し、クリティカルマネジメント研究の視点からの医療・福祉組織研究について討議した。

平成28年11月19日に、海外研究協力者デイブド・バリー氏(スウェーデン・ヨンショーピン国際ビジネススクール教授)を招聘して、大阪府下の精神科病院の施設調査と研究会を開催し、招聘研究者の研究報告を踏まえて討議を行った。

(2)医療・福祉組織の「組織倫理」

上記の共同事例調査・研究会と文献・資料分析によれば、医療・福祉組織の「組織倫理」とは、診療・看護・介護・相談・支援など医療・福祉組織が提供するサービスとそれに関わる業務全般のあり方を規定する、専門職倫理、医療・看護・ケア・生命倫理、科学技術研究倫理、社会福祉倫理、経営・企業倫理等に関する組織固有の明示的・暗黙的な倫理指針・綱領・行動規範であり、個別の医療・福祉組織が自らのサービス・業務内容とそれを利用する多様な患者・利用者に応じて、医療・福祉専門職と経営・管理者のリーダーシップによって歴史的に構築・発達させていくものと捉えることができる。

具体例として医療組織の組織倫理に関する

問題と対応を分析すると、A.医学・医療技術の研究と応用に係る倫理的問題・対応、B.医学・医療技術専門職の業務遂行に係る倫理的問題・対応、C.専門職組織一般に係る倫理的問題・対応、D.公益非営利組織一般の経営に係る倫理的問題・対応に分類できる。

このうちAは、近代西欧科学技術の一つである医学・医療技術の研究と応用に係る「科学技術(研究)倫理」(いわゆる「生命医学倫理 biomedical ethics」(Beauchamp and Childress, 2001))の研究と教育において、またBは、独占・特権的労働者である医学・医療技術専門職が、その業務・名称独占権と自律的業務遂行権を濫用し、患者に不利益をもたらすことを防止するための「専門職倫理 professional ethics」の研究と教育において、それぞれ多く取り上げられてきた。

一方Cは、独占・特権的な医学・医療技術専門職を雇用する近代公式組織に固有の特性に起因する患者の不利益に係る諸問題・対応であり、従来の日本の医療界では倫理的問題・対応ではなく、医療の質や患者満足・サービスに係る諸問題・対応として取り上げられる傾向があった。またDは、政府による規制と保護・補助を受けている資本主義経済組織に固有の特性に起因する多様なステークホルダーの不利益に係る諸問題・対応であるが、従来の日本の医療界では、国民負担軽減のための医療費抑制という論点以外は、倫理的観点を含め問題化が遅れている。

さらに、現実の医療組織は高度な「複雑系 complex system」(Letiche, 2008)であるため、例えば「官僚制の逆機能」に起因する現実の多くの倫理的諸問題・対応はCとDに明確に分類できない。このことから示唆されるように、医療組織の組織的实践における現実の多くの倫理的諸問題・対応は、上記の複数類型にまたがる多様な諸問題・対応の複合(対立・相互抑制および相互依存・強化)によって「創発」する、高度に複雑な組織的实践として捉えていく必要がある。

(3)国内外学会報告と海外調査

平成26-29年度に欧州経営学会、欧州組織学会、経営・組織アート学会、クリティカルマネジメント研究学会、組織シンボリズム学会、仕事と学習研究国際学会等の国際学会と、日本経営学会、日本科学史学会、日本情報経営学会、経営情報学会、日本生命倫理学会、日本社会医学会、応用哲学学会等の国内学会で研究報告を行った。

特筆すべき成果として、平成28年9月18日に、本研究組織と科研費研究課題「現場に根ざした医療組織倫理の構築に向けた基礎的研究」研究組織(代表：服部俊子・研究分担者)が合同で、第54回日本医療・病院管理学会学術総会において、「倫理的にマインドフルな病院づくり：病院倫理制度の創造的破壊に向けた倫理学と経営学からの問題提起」と題するシンポジウムを開催した。シンポジ

ウムには日本生命倫理学会の協賛、経営哲学学会および日本情報経営学会「医療・介護・福祉サービス創造のための地域医療連携情報基盤に関する研究」研究プロジェクトの後援を得た。両研究組織メンバーと外部研究者・医師2名によるパネル討議の後、海外研究協力者アンネ・パッシラ氏(フィンランド・ラッペンラント工科大上級研究員)と研究代表者が、医療・福祉組織における倫理的リーダーシップ開発のための、演劇技法を用いたワークショップを行った。

平成 29 年度は研究期間を延長し、海外研究協力者の都合により平成 28 年度に実施できなかった国際学会報告・共同研究・海外調査を実施した。まず、平成 29 年 4 月 20 日から 5 月 20 日まで海外研究協力者スティーブン・テイラー氏(米国・ウースター工科大教授)を訪問し、アート技法を用いた組織・リーダーシップ開発に関する共同研究を行った。その成果の一部を平成 29 年 7 月に欧州組織学会で報告したところ、デンマーク、フィンランド、英国の研究者から要請があり共同研究を行った。その成果は平成 30 年の経営・組織アート学会で報告予定である。次に、平成 29 年 9 月 11-17 日に海外研究協力者クラウス・ペーター・シュルツ氏(フランス・ICN ビジネススクール教授)を訪問し、ICN ビジネススクールで開催された第 2 回組織の創造性と持続可能性に関する国際学会で共同報告を行うと共に、フランスの社会福祉組織経営と組織倫理に関する共同調査を行った。さらに、平成 29 年 9 月 18 日から 26 日まで海外研究協力者ユーリア・エンゲストローム氏(フィンランド・ヘルシンキ大学活動発達学習研究センター長・教授)を訪問して、アートを用いた組織倫理・リーダーシップ教育に関する意見交換と情報収集を行った。

(4)アートワークショップ手法を用いた組織倫理教育プログラムの開発と試行

以上の研究成果に基づいて、アートワークショップ手法を用いた組織倫理教育プログラムのプロトタイプを開発し、大阪市立大学大学院経営学研究科社会人プロジェクト研究を受講する医療・福祉組織専門・管理職約 30 名の協力を得て、下記の通り試行した。

平成 27 年 2 月 21-22 日に、スーザン・モファット氏とマーガレット・ライリー氏の指導のもと、大阪市立大学と大阪市内のコミュニティカフェに地域住民を招いて、演劇技法と詩作を用いたワークショップを試行した。

平成 28 年 2 月 27-28 日及び 3 月 5-6 日に、スティーブン・テイラー氏とスーザン・モファット氏の指導のもと、大阪市立大学と大阪市内のコミュニティカフェで、演劇技法と詩作を用いたワークショップを試行した。

平成 28 年 9 月 19 日に、アンネ・パッシラ氏の指導のもと、大阪市立大学で、演劇技法を用いたワークショップを試行した。

平成 28 年 11 月 20 日に、デイブド・バリ

ー氏の指導のもと、大阪市立大学で、映像制作技法を用いたワークショップを試行した。

< 参考文献 >

Beauchamp, T. L. and J. F. Childress (2012). Principles of Biomedical Ethics. 7th ed. Oxford University Press.

Letiche, H. (2008). Making Healthcare Care: Managing Via Simple Guiding Principles. Charlotte, NC: Information Age Publishing Inc.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 32 件)

Klaus-Peter Schulz, Takaya Kawamura, Silke Geithner, Enabling sustainable development in health care through art-based mediation, Journal of Cleaner Production, 査読有、140、2017、1914-1925、<http://doi.org/10.1016/j.jclepro.2016.08.158>

川村尚也、これからの病医院のイノベーション経営と経営人材、吉原健二(編)『医療経営白書 2017-2018 年版』、日本医療企画、査読無、2017、1-6

川村尚也、現代日本の病院組織の特徴と経営課題 組織論とイノベーション経営の視点から、病院、査読無、76、2017、188-192

土屋貴志、日本の医学犯罪隠蔽に関する米国への謝罪要求論文、15 年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読有、17-1、2016、11-18

Yiwen Lin, Mihaela Kelemen, Toru Kiyomiya, The role of community leadership in disaster recovery projects: Tsunami lessons from Japan, International Journal of Project Management, 査読有、2016、<http://doi.org/10.1016/j.ijproman.2016.09.005>

櫻本直樹、服部俊子、病院組織と倫理 - 組織の倫理化に関する一考察 -、人間と医療、査読無、6、2016、32-40

服部俊子、大北全俊、芥川茂、櫻本直樹、病院における倫理支援と病院内倫理委員会、先端倫理研究、査読無、10、2016、71-89

川村尚也、科学技術組織における経営倫理の研究アプローチ-米国企業・経営倫理研究とクリティカルマネジメント研究の視点から-、科学史研究 [第 期]、査読無、278、2016、172-177

服部俊子、今の病院組織の中で、事前指示書をどう扱ったらいいのか?事前指示書を尊重して扱うためにできること、浅井篤・大北全俊(編)『少子超高齢社会の「幸福」と「正義」-倫理的に考える「医療の論点」』、日本看護協会出版会、査読無、2016、152-160

土屋貴志、ニュルンベルグ綱領、村松聡・松島哲久・盛永審一郎(編)『教養としての生命倫理』、丸善出版、査読無、2016、189-190

土屋貴志、ヘルシンキ宣言の成立、15年戦争と日本の医学医療研究会会誌、査読無、16-1、2015、22-39

清宮徹、ディスコース的視座と組織化:相互言説性のダイナミクス、組織学会大会論文集、査読無、4-2、2015、43-54、http://doi.org/10.11207/taaos.4.2_43

Klaus-Peter Schulz、Silke Geithner、Takaya Kawamura、Applying Tool-Kit-Based Modeling and Serious Play: A Japanese Case Study on Developing a Future Vision of a Regional Health Care System、Sebastian Gurtner and Katja Soyez (eds.) Challenges and Opportunities in Health Care Management、査読有、2015、291-305、http://doi.org/10.1007/978-3-319-12178-9_23

服部俊子、大北全俊、牧一郎、櫻本直樹、病院組織倫理試論:病院という場をどうデザインするか、Communication-design、査読有、11、2016、27-48

〔学会発表〕(計 66件)

川村尚也、日本の医療組織・経営の特性と地域医療連携の課題としての経営倫理、日本情報経営学会第75回全国大会、2017

Takaya Kawamura、Anne Pässilä、Sue Moffat、Connecting creativity and sustainability via human body: Re-creating creative and sustainable organizational bodies through body-based management learning、2nd ARTEM Organizational Creativity and Sustainability International Conference、2017

川村尚也、医療・福祉組織のマネジメント」江尻行男・高橋淑郎・瓜生原葉子報告へのコメント、日本経営学会第91回大会統一論題(招待討論者)、2017

Takaya Kawamura、Double stimulation in the arts-mediated critical management learning for health/social care organizations、33rd European Group for Organization Studies Colloquium、2017

Takaya Kawamura、Evaluating the effects of arts-mediated workshops on the critical management learning for health/social care professionals and managers in Japan、The Annual Conference of the European Academy of Management、2016

Klaus-Peter Schulz、Takaya Kawamura、Silke Geithner、Kamel Mnisri、Democratizing Learning and Development through Art-Based Mediation and Playful Modeling、The Annual Conference of the European Academy of Management、2016

Takaya Kawamura、Experimenting arts-mediated critical management learning for health/social care organizations - an analysis from a Vygotskian perspective of double stimulation、32nd European Group for Organization Studies Colloquium、2016

川村尚也、福原康司、高橋正泰、中原淳、高木光太郎、舘野泰一、ワークショップ「経営教育の新たな方法を考える」、日本経営学会第90回大会、2016

川村尚也、自組織アクション・リサーチ等を用いた「協働・連携」イノベーション経営人材の育成、第54回日本医療・病院管理学会学術総会、2016

服部俊子、金城隆展、尾藤誠司、大北全俊、川村尚也、瀧井和子、高橋正泰、倫理的にマインドフルな病院づくり:病院倫理制度の創造的破壊に向けた倫理学と経営学からの問題提起、第54回日本医療・病院管理学会学術総会、2016

Anne Pässilä、Takaya Kawamura、倫理的にマインドフルな組織づくりのリーダーシップ、第54回日本医療・病院管理学会学術総会、2016

服部俊子、金城隆展、櫻本直樹、堀江剛、大北全俊、臨床倫理の委員会活動に現れる病院「組織」の問題、第28回日本生命倫理学会年次大会、2016

Takaya Kawamura、Arts-mediated Critical Management Learning for Health/Social Care in Japan、MAPSI 2015 Conference (keynote lecture)、2015

Takaya Kawamura、Facilitating expansive learning and developmental work research at health/social care organizations through arts-mediated critical management learning、31st European Group for

Organization Studies Colloquium, 2015

服部俊子、大北全俊、櫻本直樹、病院という組織を対象にした倫理を考える2、応用哲学学会、2015

櫻本直樹、服部俊子、病院組織はどうすれば倫理的になりうるか、九州医学哲学・倫理学会、2015

清宮徹、ディスコース的視座と組織化:相互言説性のダイナミクス、2016年度組織学会年次大会、2015

Takaya Kawamura、Arts-mediated critical management learning for health/social care in Japan、1st ARTEM International Conference on Organizational Creativity (keynote lecture)、2015

川村尚也、科学者倫理と経営者倫理:企業・経営(者)倫理と社会的責任の視点から、日本科学史学会第62回年会シンポジウム(招待講演)、2015

Takaya Kawamura、Expanding Organization Studies Critically with Activity Theory - A Japanese Approach、30th European Group for Organization Studies Colloquium、(sub-theme keynote lecture)、2014

①Takaya Kawamura、Learning health/social care management critically with an arts-mediated pedagogy、7th Arts of Management and Organization Conference、2014

②服部俊子、大北全俊、牧一郎、櫻本直樹、組織という次元の倫理、第26回日本生命倫理学会、2014

〔図書〕(計5件)

井上幸孝、佐藤暢、福原康司、他、専修大学出版局、人間と自然環境の世界誌 知の融合への試み、2016、1-280

櫻井浩子、加藤太喜子、加部一彦、土屋貴志、他、山代印刷株式会社出版部、「医学的無益性」の生命倫理、2016、1-219

Christopher Grey、Isabelle Huault、Véronique Perret、Laurent Taskin、Toru Kiyomiya、他、Routledge、Critical Management Studies: Global Voices, Local Accents、2016、1-272

池田理知子、五十嵐紀子、清宮徹、他、ミネルヴァ書房、よくわかるヘルソコミュニケーション、2016、1-192

6. 研究組織

(1)研究代表者

川村尚也 (KAWAMURA, Takaya)
大阪市立大学・大学院経営学研究科・准教授
研究者番号: 80268515

(2)研究分担者

土師 俊子 (服部俊子) (HAJI/HATTORI, Toshiko)
大阪市立大学・大学院看護学研究科・准教授
研究者番号: 50609112

濱井 和子 (HAMAI, Kazuko)
広島国際大学・看護学部・准教授
研究者番号: 80461325

清宮 徹 (KIYOMIYA, Toru)
西南学院大学・文学部・教授
研究者番号: 00360298

福原 康司 (FUKUHARA, Kouji)
専修大学・経営学部・准教授
研究者番号: 60337441

太田 雅晴 (OTA, Masaharu)
大阪市立大学・大学院経営学研究科・教授
研究者番号: 00168949

土屋 貴志 (TSUCHIYA, Takashi)
大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 90264788

高橋 正泰 (TAKAHASHI, Masayasu)
明治大学・経営学部・専任教授
研究者番号: 10154866

(3)海外研究協力者

マッツ・アルヴェッソン (ALVESSON, Mats)
ヒューゴ・レティーシュ (LETICHE, Hugo)
ポール・アドラー (ADLER, Paul)
ユーリア・エンゲストローム (ENGESTRÖM, Yrjö)

スティーブン・テイラー (TAYLOR, Steven)
デイブド・バリー (BARRY, Daved)
クラウス・ペーター・シュルツ (SCHULZ, Klaus-Peter)

アンネ・パッシラ (PÄSSILÄ, Anne)
マクシミリアン・ヴィルケスマン (WILKESMANN, Maximiliane)
ユーイ・ヴィルケスマン (WILKESMANN, Uwe)
スーザン・モファット (MOFFAT, Susan)
マーガレット・ライリー (RILEY, Margaret)